

編集後記

難病とは厚生省によるいわゆる特定疾患をさしているが、考えてみれば不思議なよび方である。“治療の手段が難儀でお手あげの病”という意味で使われているのであろうが、われわれの通常感覚からすれば脳卒中、脳性麻痺などもかなりの難病である。スモンのように原因の究明もなされ対策も講じられると発生率は減少しているが、既にスモンで機能障害を起こしてしまっている方々は薬公害の犠牲になったわけでお気の毒である。

その点、薬は必要最低限の使用を基本とするリハビリテーション医療では薬公害に加担する面はないにしても、難病のリハビリテーションにおいて出来得る最大限のリハビリテーションサービスを提供しているかどうか疑問である。リハビリテーションを行っても仕様がないう事で紹介も全く無いケース、リハビリテーションに患者が廻って来ても担当側の motivation のないケース、病気について医師が十分に患者や家族に説明をしない

ケースなど、色々の場合が考えられる。

今回はある程度の研究が進んでいる難病群、スモン、ベーチェット、悪性関節リューマチ、脊髄小脳変性症、肺線維症が特集としてとりあげられた。各論文とも力作で色々な角度より考えさせられる内容である。

わが国の研究班の構成は時に政治家まがいの派閥が組まれたり、全く税金の無駄使いといわゆる難病群の研究が進められ1日も早く悩んでいられる方々に福音が訪れる事を願って止まない。

そのためにも、われわれリハビリテーションに従事するグループは出来るだけの事を最後まで患者と一緒に苦しみ、試みて行く責任があるのではないであろうか。

難病のリハビリテーションについて考えておられる事、機能訓練上のアイデア等々ありましたら是非編集部までご連絡戴ければ幸いです。
(荻島 秀男)

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
小 池 文 英
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水 野 祥 太 郎

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
荻 島 秀 男
土 屋 弘 吉
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
江 口 寿 栄 夫
小 野 啓 郎
河 邨 文 一 郎
五 味 重 春
沢 村 誠 志
杉 山 尚
武 智 秀 夫
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
間 得 之
長 谷 川 恒 雄
橋 倉 一 裕
平 方 義 信
福 井 罔 彦
三 島 博 信
渡 辺 英 夫
飯 田 卯 之 吉
遠 藤 千 恵 子
小 川 孟
加 藤 一 郎
小 島 蓉 子
笹 沼 澄 子
鈴 木 明 子
高 田 玲 子
陳 慧 玉
土 屋 和 夫
松 村 秩
(以上五十音順、敬称略)

(細田、鹿島)

次号予告 (第6巻第4号)

特 集 肢体不自由児教育——全員就学をめぐる

全員就学—その課題と展望—	筑波大学	三 沢 義 一
養護・訓練	整肢療護園	小 池 文 英
教員養成の問題	桐が丘養護学校	柳 本 雄 次
東京都における全員就学の現実	府中養護学校	加 藤 寛 二
座談会／全員就学をめぐる	横浜市大	大 川 嗣 雄・他

講 座 筋・神経系の電気診断(4)(強さ時間曲線)

.....国立身障センター 初 山 泰 弘

一頁講座 関節(4)(関節の生体力学—運動).....大阪大学 敷 田 卓 治